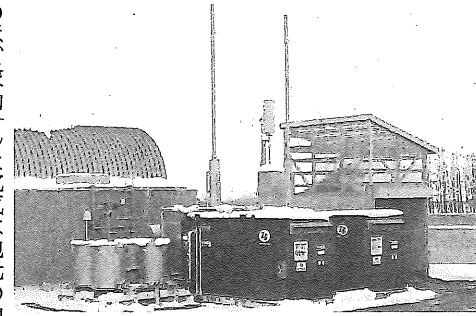


2016年(平成28年)2月19日(金曜日)

バイオガス発電



土谷特殊農機具が作ったバイオガス発電プラント(土幌町)

プラント道外展開

土谷特殊農機具製作所(帯広市)は家畜の排せつ物を使うバイオガス発電プラントの道外展開を始める。三重県伊賀市で稼働した出力150キロワットの発電所を皮切りに、道外で年2〜3カ所の建設を目指す。大規模な畜産農家が多い道内で開発した技術を生かし、環太平洋経済連携協定(TPP)発効に向け規模拡大が進むとみられる道外農家の需要獲得に乗り出す。

土谷特殊農機具、まず三重

TPPで大規模化 視野

ドルになっているケースも多い。TPPが発効すれば、輸入農畜産物との競合で大規模化を目指す農業者が増える見通し。大量のふん尿をまとめて処理できる施設として、関東や九州、東北などの大規模化を進める畜産農家向けに販売する。

バイオガスは再生可能エネルギーの1つとして固定価格買い取り制度の対象になっている。1キロワットあたりの売電価格は39円と、木材や農作物残さなど他の多くのバイオマス(生物資源)を使った発電よりも割高だ。施設の建設に数億円の初期

三重県でこのほど稼働したバイオガス発電プラントは農業生産法人が運営する大規模農場内に建設した。大量の家畜のふん尿を発酵し、発生するバイオガスを使って発電する。発電の問題が規模拡大のハ

三重県でこのほど稼働した電気は地元の中部電力に全量を販売する。道内に比べ生産規模の小さい本州や九州の農家は、ふん尿の処理施設が不十分で、悪臭などの問題が規模拡大のハ

コストがかかるが、年間の売電収入などで15年ほどで償却できるという。ガスを取り出す発酵過程では液肥や熱も発生し、有効利用が可能だ。

05年に土幌町内にバイオガス発電施設を建設してから、道内で20基を超える建設実績を持つ。発電能力は合計で約2500キロワットほど。年内には帯広近郊で、家畜のふん尿

だけでなく、野菜加工工場から出る生ごみもバイオガスの発生材料として使う発電所を設ける。道内で畜産業が盛んな地域は電力需要が少ないため、北海道電力の送電

線の能力が小さいことが多い。すでに多くの太陽光発電所が建設されているため、送電線の容量不足からバイオガス発電所が建設できなかつたり、送電線の利用に時間がか

かったりするケースも増えている。本州では北海道よりも送電線に余裕がある地域も多く、施設の建設が可能な場所を見つけやすいとの判断もある。

土谷特殊農機具は20